

釧路湿原自然再生協議会  
第29回 再生普及小委員会  
議事要旨

日時：平成29年6月15日（金）13:30～15:30

場所：釧路地方合同庁舎5階 第1会議室

1. 開会
2. 議事
  - 1) 再生普及小委員会の活動について
  - 2) 自然再生の普及のためのパンフレットの活用について
  - 3) その他
3. 閉会

事務局

挨拶

資料確認

出席者変更の連絡をする。釧路総合振興局は代理の方が出席されている。新たに担当になられた釧路開発建設部の委員より一言願います。

委員

釧路開発建設部治水課へ4月より着任した。よろしく願います。

事務局

これより議事進行を委員長に願います。

委員長

再生普及小委員会の今年度の活動について、資料に基づき事務局から説明願う。

【議題1. 再生普及小委員会の活動について】

事務局

資料説明

(資料 1-1「ワンダグリンド・プロジェクトの推進について」  
資料 1-2「再生普及推進のための連携チーム会合について」  
資料 1-3「学校支援ワーキンググループの取組みについて」)

#### 委員長

資料 1-1 について意見、感想をいただきたい。  
資料に記載がある釧路国際ウエットランドセンター主催事業について説明願う。

#### 委員

「みんなで調べる復元河川的环境」では、タイトルの「みんな」というのがポイントであり、参加者が自然再生に貢献している実感が持てるよう「みんなで調べる」という名称で続けている。地域の一般市民を対象として、高齢者から子供まで家族連れで参加されている。

復元河川工事終了時から毎年夏と秋に定点観測を行っている。調査の内容は、茅沼での堆積土壌の進行状況の記録、川から水中生物を網ですくい上げて種類や数を把握する調査を行っている。また、蛇行化したことで兩岸に水が溢れたことにより植生に変化が出ており、専門家に同行していただき解説を受けながら調査を行っている。

夏は河岸を歩きながらこれらの調査を行い、秋はカヌーを使用して河川を下りながら、途中何度か上陸して観測調査を行っている。

これらの記録は今後の再生事業に活用していただくために保存している。

活動は河川財団様から補助金をいただき、現場では釧路開発建設部治水課のご協力をいただいている。この場を借りてお礼申し上げる。

#### 委員長

釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会とこどもエコクラブ釧路との共催により昨年 7 月 23 日に開催された「特定外来生物のウチダザリガニの捕獲体験」について委員より説明願う。

#### 委員

釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会では、清掃活動やウチダザリガニの定点観測を行っている。ウチダザリガニの防除は例年 6 月から 10 月の間に温根内川や赤沼で行っており、年 1 回 (7 月末) は市民参加で行っている。

毎年 20 名程度の参加者がある。例年、土曜日に川に籠を仕掛け、日曜日に参加者と一緒引き上げる。ウチダザリガニを見たことのない子供達から多く喜ばれている。引き上げたウチダザリガニは計測し、大きさや性別等の記録を実際に体験させている。計測したウチダザリガニを煮て食べるのが美味しいと好評であり、今後も毎年行っていく予定である。

また、こどもエコクラブさんから作業を始める前に特定外来生物についての説明をしていただいている。

#### 委員長

トラストサルン釧路で実施している植樹や達古武沼の探鳥会イベント「どんぐり記念日」について説明願う。

#### 委員

資料 5 ページの行事予定に、9 月 30 日のどんぐり記念日と 11 月 12 日の達古武沼探鳥会があるが、この行事は毎年ほぼ同時期に行っている。

現在、トラストサルン釧路では自然保護地での緑化活動に力を入れており、春と秋に市民参加で行っている。本年は既に 5 月 27 日、28 日の 2 日にわたって春の植樹を行った。

植樹、緑化は地元の木から採った種から育てた苗で行うことを原則としており、秋にどんぐりを拾って植える活動をしている。どんぐりがならない年には他の種子の採取も行うが、秋に植えることができるミズナラを使って植林できることから、9 月 30 日にどんぐりの植え付け予定を入れている。

また、11 月 12 日に行う達古武探鳥会は、今年も野鳥の会釧路支部との共催で行う。寒くなる時期なので 1 時間半ほどの短い時間の探鳥会になる。緑化活動を行っている保護地から見下ろすところにある達古武沼では様々な水鳥を観察することができる。観察するだけでなく、10 年以上カウント調査を兼ねて行っている。若干種類や数に変化があることが分かっており、餌としている植物、魚、その他生物等、達古武沼の変化を反映しているのではないかと考えている。実際に沼の生物調査はしていないが、水鳥の観察によりある程度の変化がわかるのではないかと考えている。

昨年は「コッタロ水源林保護地観察会」を行った。今年の予定には入っていないが、釧路湿原国立公園 30 周年ということでもあり、代表的な保護地での観察会が行えたら良いと考えている。

3 年ほど前まで達古武オートキャンプ場の木道でホタルの観察会を行っていた。木道の途中にトラストサルンの保護地があるため紹介も兼ねて行っていた。一度新聞に掲載したところ 100 人以上の参加があり、夜間であり安全確保が厳しいことからそれ以後は中止した経緯がある。

一昨年、環境省の行事としてやらないかと投げかけてみたが、開催には至らずそれ以降中止としている。オートキャンプ場の管理者からは宣伝にもなるのでやって欲しいという意向もあるが、8 月初旬はキャンプシーズンとなり、駐車場も狭い等色々な課題があることから工夫が必要であると考えている。

#### 委員長

シラルトロ湖の先のオートキャンプ場にホテルを見に来ている人がいると聞いた。大きなキャンピングカーで何週間も滞在しているらしい。達古武オートキャンプ場のホテルと同じ種類なのか。

#### 委員

種類は同じヘイケボタルだと思うが、シラルトロ湖先を歩いたことがないのでわからない。達古武オートキャンプ場の木道は木に囲まれており、風が無く暖かい為かよく飛んでいるのを見かける。

温根内でもホテルは有名であり、観察会の実施は可能だと考えている。達古武オートキャンプ場の木道も温根内と同じで、奥まで行って観察しても良いし、少し行って帰って来るのも良いという状況である。木道が若干傾いていることもあり降雨後は滑りやすく、安全確保ができないという状況ではある。

#### 委員長

ホテルを観察できるというのは良い情報である。

環境コンサルタント株式会社主催の「カヌーDE 清掃 in 達古武湖」について委員より説明願う。

#### 委員

イベントを始めた当初は、カヌーに乗り達古武湖の清掃をするという活動であった。

しかし、それだけでは参加者が集められないということもあり、ヒシの実を利用した料理を試食してもらうようにした。ヒシは事前に達古武湖から採り、煮るなどの下準備をしている。イベント開始から2~3年は、ゴミも多く清掃の意義があったが、最近はゴミが少なくなった。ゴミが少なくなったことは良いことであるが、ヒシの実料理を食べることがメインのイベントになってしまっている。

#### 委員長

資料 1-2 について説明する。「再生普及推進のための連携チーム」は自然再生協議会事務局全体を構成員とするということが、既に前回の自然再生協議会で提案され承認されていた。それに基づき 12、13 ページのような設置と取り組み課題について取りまとめていた。しかし、再生普及小委員会で審議し了承する手続きが必要だということがわかったため、資料に基づいて検討いただきたい。

12 ページ「再生普及推進のための連携チーム」の設置についての修正は「3. 構成」の赤字部分、各小委員会事務局に代わって釧路湿原自然再生協議会事務局が入る。また、一部改定の日付については、本日の下承が得られれば本日付けとする。

13 ページ「再生普及推進のための連携チーム」の取り組み課題の修正は、当初※で 2016 年

以降の着手を予定と記載していたが、既に予定した時期を過ぎており、予定としていた部分を実施することとして載せる。

以上の件について承認いただければ本日付けで施行したい。進めてよろしいか。

(承認)

ありがとうございます。

資料 1-3「学校支援ワーキンググループの取組みについて」では、達古武地区フィールドで行われる実践事例をフィールド情報マップに追加していく作業や、フィールド情報マップを湖陵高校、標茶小学校、昆布森中学校等において実践コーディネートしていく事等、様々な新たな取組みを増やしつつある。希望等あればお受けしたいが如何か。

また、15 ページの取組み課題 3「学校教員の関心喚起、湿原の教育的な価値の普及」における学校教育への支援では、発表のためのシステム作りを進めており、北海道教育大学釧路校の境智洋教授にご協力いただいた。釧路湿原流域環境を題材とした実践等の発表の場作りでは、境教授がカナダの学校教育における発表システムを学ばれ、それに基づいた実践方法を模索中である。これまでは「良くできました」という形で終わる発表会が多かったが、アクティブラーニング形式で子供たちが自主的に物事、課題を発見し調べ発表するという事について少し具体的な形を取り入れるという試みである。

議題 1. 再生普及委員会の活動について質問等無ければ資料 2 へ進む。

## 【議題 2. 自然再生の普及のためのパンフレットの活用について】

### 事務局

#### 資料説明

(資料 2-1「自然再生の普及のためのパンフレットの活用について」

資料 2-2「釧路湿原自然再生ガイドブック」)

### 委員長

パンフレット作成に関して、当初より様々な使い方を想定した意見をいただいたが、全てに対応するのは難しくどちらかを犠牲にするということが多々あった。

また、思った通りに原稿ができ上がらない、著作権により欲しい写真が手に入らない等の様々な困難があった。

表紙についても様々な意見があった中で最終的にこの表紙とすることにした。

達古武沼、達古武湖の呼称について説明を入れたが意見は如何か。

### 委員

良いのではないか。

委員長

写真に関しては、新しいもの、より内容に即した写真に差し替える作業はあるが、8月に使用する予定があるためそれまでに印刷を間に合わせたい。致命的な内容に関する間違いがあれば、その都度修正して最新版としていく。

実際にパンフレットを作成すると様々な意見がある。個々はとても貴重な意見であるが、それを全て叶えようとすると問題が多く難しい。意見はあるか。

委員

パンフレット 3 ページの「生命」の湿原が多くの命をはぐくむというところの「エゾカオジロトンボ」は、元北海道教育大学教授の生方秀紀氏に正面から見た名前の由来が解る写真を戴いた。クシロハナシノブの写真がわかりづらいため写真を提供したい。

委員長

写真をお持ちか。

委員

今は持っていないがもし良ければ2、3日以内に届ける。

委員長

事務局は如何か。

事務局

是非お願いします。

委員長

「エゾカオジロトンボ」は生方先生が撮影したもののか。

委員

そうである。使わせて頂けると了承を得ている。

委員長

印刷はいつ頃可能か。

事務局

7月中に印刷する。

委員長

活動や市民参加の企画実施の際にパンフレットを使用したいと考えている方は、7月中には完成するので問い合わせいただきたい。

委員

私共のNPOでは5,000～10,000部作成し、英語版も作成している。1,000部というのは少な過ぎるのではないか。

委員長

これは予算の関係か。

事務局

予算の関係もあるが、ばら撒くような利用は想定してない。更新の可能性を含めて最小限の部数にしたい。

委員

私共が作っているものは、10～16ページ程度でおおよそ理解できるというもの。本州から来るたくさんの学生に配るために作っている。この地域だけの問題でないような気がする。

委員長

少し将来も考えてということか。

委員

これをベースとしてダイジェスト版があればありがたい。

委員長

検討させてほしい。委員に質問だが、5,000部や10,000部程度を作成して使い切っているのか。

委員

使っている。2年に1度程度、更新している。

委員長

参考にさせていただく。

議事3.その他について、情報提供などがあれば発言いただきたい。

## 委員

くしろエコフェア協賛散策会のパンフレットを配布した。6月25日実施予定である。

## 委員

くしろエコフェア 2017 のパンフレットを配布した。6月24日に釧路市生涯学習センターまなぼつとの2階で開催予定である。湿原再生の紹介パネル、環境省の移動ミュージアム、北海道の環境問題に関するパネル展示のほか、釧路市環境保全課による様々な湿原に関するパネル、エコドライブ関連等、一般の団体を含めて20団体が参加して行う。

委員から配布したパンフレットの内容は、6月は環境月間であり、フィールドワークとして6月25日に武佐の森の探索会を行う。10時に武佐の森中央口集合となっており、皆さん参加頂きたい。

私は釧路市民活動センターわつとの事務局長を務めている。今年4月から釧路新聞のイベント情報4面の記事をわつとで編集している。記事が載せることができるため、是非、わつとに情報を寄せていただきたい。

## 委員

私も毎週金曜日にFMの番組で定時放送をやっている。土日の行事等、急ぎの際には環境教育研究センターに電話を頂ければ協力する。

## 委員長

ご協力いただけるということである。何かあれば連絡願う。

本日の議事は以上である。

## 事務局

事務局から連絡する。釧路湿原国立公園指定30周年記念シンポジウムのチラシを配布した。釧路湿原は1987年7月31日に国立公園に指定され、今年で30周年となることから7月31日に記念シンポジウムを開催する予定である。

記念講演では、約半世紀にわたり釧路湿原を見つめて来られた再生普及小委員会委員長代理の新庄久志さんに「地域の人々と釧路湿原の歩み」と題して記念講演をいただく。また、釧路湿原自然再生協議会会長の中村太士先生のコーディネートでパネルディスカッションが行われる。中学生、高校生を含めた湿原の未来を担う若者をパネリストとしている。

同時に、安藤誠氏の巡回写真展が行われる。釧路市、標茶町、鶴居村、釧路町にて2週間程度の写真展を行うため、近くで開催されたおりにご覧いただきたい。

30周年冠イベントと呼んでいる様々なイベントの一覧表を配布した。皆さんが行っている恒例のイベントにも、頭に「釧路湿原国立公園指定30周年」とつけていただきPRして



いただけるよう是非お願いします。特に審査等はしていないがPRしていただける際には、鉚路市環境保全課まで一報いただきたい。

8月8日のフィールドワークショップのチラシを配布した。悪天候の場合は翌日9日に順延する。今回は温根内の鉚路川右岸堤防北側の湿原を胴長で歩き、ヤチマナコや伏流水について学ぶというもので、例年どおり新庄委員の案内で入る。新庄委員の案内なしでは絶対に入れない湿原の中に入るという非常に貴重な機会である。先日案内を始めたばかりだが既に応募者がある。希望される方は早めをお願いしたい。

今後の再生普及小委員会としての予定は、8月上旬に学校支援ワーキングを開催予定である。次回、再生普及小委員会は例年通り12月頃を予定している。

事務局

これで第29回再生普及小委員会を終了する。

(閉会)